

健康寿命を伸ばし 素晴らしいまちづくりを

新潟市民は大いに喜んでゐる。この大病院を早く完成して貰うと、心から願つてゐる。この大病院は、新潟市に最も多く住む中高年層の健康を守るために、最も重要な施設である。そこで、この大病院が早く完成するよう、何よりも早く、この大病院を建設するための資金を募りたい。この大病院は、新潟市民の健康を守るために、最も重要な施設である。そこで、この大病院が早く完成するよう、何よりも早く、この大病院を建設するための資金を募りたい。

では、市医になつて平素の健期に発見されるとと思われる



県健康管理協会

己のごだわり、魂が 新潟の文化を

湯・市民映画館
シネ・ウインド代表
斎藤正行さん

いに楽しみなさい。それと、おもしろい人間を若いうちから育てなければいけない。そこでおもろい人間（ヨノ者）

市体育指導委員
井上 健一



護国神社にある新潟市出身作家・坂口安吾の碑

「まちづくり」の言葉の意味が大きいに変化つつある。「街づくり」、「都市開発」、「街の活性化」等々から「まちづくり」、「まちの活性化」等々へと、これは何を意味しているかを考えてみる。以前に比べてより市民の側に立つべきだとの発想があつたが、それが「まち」の意味が、すでに行政区分ではなく、町内単位ではないということが容易に理解できる。便利上の観点でいえば、そういうものがあるが、それは「まち」の生き方についてのほとんどではない。それは「この新潟のまちが豊かであるから」として、その豊かさは水に尽さない。自然の恵みが大き

い。また都市機能も都市設立も、これでは何が不足している。新潟市は豊かなさを認識しているおもろい人間が不足している。もろい人間の中には、少しもろい人間がある。それが非常に少ない。新潟市は、おもしろい人がいる。おもしろがる人がいる。おもしろがる人は大勢いるから心配ない。もしろがる人がいない。豊かなさを認識しているおもろい人間が不足している。もろい人間の中には、少しもろい人間がある。それが非常に少ない。新潟市は、おもしろい人がいる。おもしろがる人がいる。おもしろがる人は大勢いるから心配ない。

である。歴史でもなく、どんど
るままにも文化はある。間の
そこが文化である。「」
わることをいかにこだわ
けるか、ことなど
おれたまよ、目覚め
大人たちが、「まちづく
人、どと雷つて自勝手を手
お、ぞ。大人たよ、自分
。良しと思ふのが、次
には必ず喜ばれるは必ず
間。い。形あるのは必ず
る。本当の意味で引き
るものは遠だけである。
へ。引き継がることがで
る。引き継がることで
大。どんなにか安心である。

新都市スポーツ

さらなる本來スポーツは楽しくして常に体に対する刺激をしてではなく、豊かな人間活動の日常生活でなければならぬと思う。

スポーツという言葉からオリンピックを連想する多いそなた。大きなイベントが人々のスポーツ意識を高める起爆剤であることは確かである。

新潟市でも新潟国体以来各種のスポーツがより盛んになったと聞いている。その中でも早起き野球大会は市内の关心、規模ともに新潟が國に誇れる最たるものである。恒例の新潟マラソンも

今、中、全、民、が、開、放、さ、れ、地、域、ス、ポ、ツ、祭、り、が、一、方、で、は、行、政、と、関、係、者、に、懸、念、を、普、及、活、動、し、て、い、る、に、街、地、を、駆、け、抜、け、る、事、を、ま、た、多く、の、市、民、の、意、識、を、駆、起、さ、れ、る、こ、と、思、う。現、在、市、内、の、小、中、学、校、年、は、市、制、百、周、年、を、記、念、し、て、ま、た、多くの、市、民、の、意、識、を、駆、起、さ、れ、る、こ、と、思、う。NIIGATA START

中かかわらず、笛吹けど踊らずの感が強いのはなぜだろう。人は小学生のころ体育の時間が好きであったようだ。潜在的にスポーツ好きのはずである。事情により、やりたてもできない人、少々出かなかつた腹をさすりながら何かスポーツをやらなければと思

題に対する考え方には、都市を創る（神浦豊）と題するものはない。都市を創るの才能を持った人は、晴朗らしい才能を持つているはずであり、たゞ自分で秘められた才能に気がつかないだけの事である。ちょっと踏み出せば、必ず自分なりの感性にフィットする何かが見つかるはずである。

市民一人ひとりがスポーツに専念を寄せ、理解し、積極的に参加しようとする姿勢が、「いつでも、……ただれども、」の理想実現に近づくことになり、またその事が「スポーツ都市新潟」を新しい時代に向けて、さらに発展充実させる確となるのではないかと思う。

皆で担ごう

五十嵐祐司

新嘉慶年會謹所理事長

『スポーツ都市新潟のさらなる発展へ』



いながらもビールを飲みこころく始める人、あるいは、朝の走り切ら終わってしまった人などは意外に多いためであらうか。

一番厄介なのは、自分は何をやつてみても才能がないと決めつけている人が多い事である。世間では才能のあるなしを問題にするが、人はだれでも他人にない素晴らしい才能を持った人だ。才能を秘めた人たちは、それが認められず才能が気がかないだけの事である。ちょつと勇気を出し自分の殻から一歩踏み出せば、必ずや自分が一步踏み出せば必ずや自分が一步踏み出せる事がわかる。見つかるはずである。